

佐賀県研究成果情報（平成 23 年度）

ニホンナシ「王秋」における夏季散水による果実生理障害発生抑制					
[要約] ニホンナシ「王秋」において夏季に散水を行うと、 <u>果実生理障害の発生</u> が抑制される。また、散水による <u>果実品質</u> への影響はほとんど無い。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先		0952-73-2275 kajushiken@pref.lg.jp
部会名	果樹	専門	栽培	対象	ナシ

[背景・ねらい]

温暖化に伴う夏季高温により、ニホンナシの果実生理障害が引き起こされている。そこで、夏季高温時に間断散水を行うことによるニホンナシ「王秋」への影響を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. ニホンナシ「王秋」において、散水を行うと無散水区と比較して果実の生理障害が軽減される。(表 1)
2. ニホンナシ「王秋」において、散水区は無散水区と比較して硬度、PH で有意差がみられたが、糖度、食味への影響は無い。(表 2)

[成果の活用面・留意点]

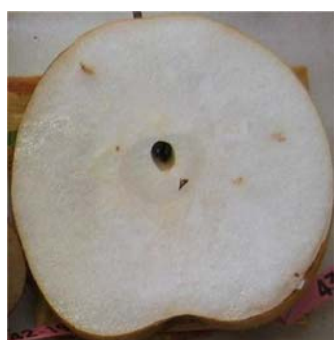
1. 本試験では 8 月中旬から 9 月中旬の晴天時に午前 10 時から午後 5 時までの間、15 分間隔で 3 分間の散水を行った。スプリンクラー は散水距離が半径 3m のものを 5m 間隔で設置し、使用した水量は 10a 当たり約 6 t であった。

[具体的データ]

表1 ニホンナシ「王秋」における夏季散水の果実生理障害への影響

	発生率 (%)	障害程度別割合(%) <sup>z)</sup>				計
		0	1	2	3	
散水区	6.7	93.3	6.7	0.0	0.0	100.0
無散水区	33.3	66.7	26.6	6.7	0.0	100.0

z) 障害程度は達観で調査し、0:無、1:少、2:中、3:甚とした。



障害程度1 少



障害程度2 中



障害程度3 甚

表2 ニホンナシ「王秋」における夏季散水が収穫時果実品質に与える影響

	果重	硬度	糖度	PH	食味 <sup>y)</sup>
散水区	607.2	3.2	12.8	4.72	3.1
無散水区	615.4	3.5	12.7	4.78	3.2
有意差 <sup>z)</sup>	n.s	*	n.s	*	

z) \* は5%水準t検定で有意差あり

y) 食味は5:良、3:普、1:不良とした

(2011年10月19日収穫、調査)

[その他]

研究課題名：地球温暖化に対応した主要作物（イチゴ・ナシ）の生産安定技術の確立

予算区分：県単（戦略）

研究期間：2009年度～2011年度

研究担当者：児玉龍彦、稲富和弘、加藤恵